

十ヶま町 中津川区公民館



金吾様が紡ぐ 地域と世代間交流

時は戦国、織田・豊臣時代に中津川区一帯を治めた郡宰伊藤津家初代の威久公は、関ヶ原合戦における「島津の退け口」で知られる島津義弘公の弟その人である。地域住民から親しみを込めて「善吾様（ぜんごさま）」と呼われ、現在に至るまで厚く崇敬されている。地元の中心には威久公を祀る「大石神社」があり、秋季人祭には地区の集落がそれぞれに踊りを奉納し続けている。これが「金吾様踊り」であり、この歴史ある踊りが集落や地区のつながりの核となっている。

きっかけは 「金吾様踊り」の再興

中津川区の象徴である「善吾様踊り」の中心で、数十年に一度奉納されていた「大念仏踊り」は、昭和30年の奉納を最後に、一時消滅の危機に直面する。しかし、「大念仏踊り」を復活させたい、「金吾様踊り」に救いを取り戻したいという思いから、地元有志により、平成15年「金吾様踊り活性化実行委員会」が結成された。そして、全部で48種類あると言われる「大念仏踊り」のうち、地割り舞「守り手」を軸とするべく、地割り舞が郷の伝統文化を愛する住民の思いが、何よりも地域のパワーとなったのである。

「金吾様」の輪が広がり 具体的な活動へ発展

「大念仏踊り」復活のパワーは、中津川区の他活動に波及し、さらに発展していく。「伝統を引き継ぎ、中津川の底力！みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」をスローガンに、公民館を中心として住民総参加の話し合いが進められた。そして、住民の総意を盛り込んだ「中津川区地域づくり活性化計画」が策定され、農業者団体、青年・女性グループ等と連携を図った実践活動に活かされている。

現在まで、伝統芸能「金吾様踊り」の後継者育成にはじまり、日曜朝市の定期実施

全国的にも珍しい金吾様踊りの迫力を肌で感じてください



前公民館長 丸口寛一氏

公民館長 今東清光氏

地域活動の概要

出している。「みんなで力を合わせ、元気で住みよい地域づくり」を目標して行われる様々なお祭り活動が世代間交流を深めており、その活動の中心となる「金吾様踊り」が、町外、県外を問わず中津川ファンを増やしている。

北麓の内陸部に位置するさつま町にある中津川区は、地区の象徴である「金吾様踊り」を守る「金吾様踊り活性化実行委員会」の活動をきっかけに、公民館組織と各公民会の役員やイベントごとに結成されている実行委員会が連携することで、元気な農村生活を

等の地域活動が継続的に行われている。また、地元農産物を使った加工品の開発にも取り組み、特に地元産のさつまいも・米麴を使った焼酎「金吾さあ」は平成21年に商標登録された町内の5店舗で販売されているほか、ふるさと納税の返礼品としても活用されるなど地域の特産品となっている。

また、地域を担う青年年の会「吾友会」や地域の女性が気軽に学び交流できる場として女性の有志により「夢はな会」が結成されるなど、中津川区内の多様な組織や活動が「金吾様踊り」を核に育ち集まることで、農村のポテンシャルを引き出している。これらの活動が認められ、平成30年度「まかなむらづくり全国表彰」において、農林水産大臣賞を受賞することも、農林水産部らしくり部局において、三賞である日本農林漁業振興会長賞を受賞している。



産標登録されている焼酎「金吾さあ」

加工品はふるさと納税にも活用

地区内の遊休農地で栽培したさつまいもを使用した焼酎「金吾さあ」の製造や、特産品のいちごを使った「善人福」などを試作し、中津川区ならではの加工品開発を行っている。



善人福



なかつこカフェ

食を通して子どもからお年寄りまで地域住民の交流の輪を広げようと始めたカフェ。地元産物を使った朝食を提供している。



十ヶま町



金吾様踊り

年に一度の大石神社の秋季大祭に奉納される踊りで400年以上の歴史を持つ。「兵児踊り」や「鷹おし踊り」など、豪落ごとに継承されている異なる踊りを総称して「金吾様踊り」と呼ばれている。



なかつこ日曜朝市

平成29年8月に住民自らの手でお店を建設、開業された日曜朝市。地元産の野菜や加工品等の販売を行っており、それに伴い農産物の生産も活発化している。

★中津川区公民館

鹿児島県薩摩郡さつま町中津川2009
電話/0996-57-0884 (中津川交流館)

●アクセス

さつま町役場から国道504号を東へ約15分
さつま町薩摩支所・県道396号を南へ約5分



錦江町

宿利原地区公民館

やどりほら



大根やぐらが灯す暮らしの光

錦江湾から乾いた西風が吹き上げる頃、人の背丈をはるかに超える巨大な「樽」がいくつも姿を現しはじめる。これが宿利原の冬の風物詩「大根やぐら」である。この土地で生産された大根をつるし、寒風にさらすことで、大根の旨味をしっかりと引き出す。こうして山菜上がった「寒下し大根」は、宿利原の大切な産品となる。

錦江町宿利原地区は、鹿児島県の人間半島西部、錦江湾を望む高さ200mの山間部にあり、夏場は真夏は30℃、さつまいも、生薑、冬場は漬物用大根と高菜が生産される。年間を通して農業が盛んな地域である。しかし、錦江町内でも最も少子高齢化が進んでいる地区でもあった。

中学校廃校が地域活動を加速させた

わらおこしのきっかけは中学校の廃校だった。平成20年3月、宿利原地区の中心にあった中学校がその歴史に幕を閉じてしまった。突きつけられた現実。しかし、そこから住民の活動が活発化する。自分たちが慣れ親しんだ中学校跡を無駄にするわけにはいかない。地域の現状への危機感が地域住民の心に火を付けたのである。



大根やぐらの幻想的なライトアップは必見です！

地域活動の概要



公民館長 笑喜和則氏

しながらむらづくりを推進している。「大根やぐらのライトアップ」、「やまんなかスクールマルシェ」、「教育支援」など様々な地域活動が評価され、令和元年度「豊かなむらづくり全国表彰」農林水産大臣賞を受賞している。

冬の風物詩「大根やぐら」で知られる錦江町宿利原地区。平成20年3月、地域の中心にあった宿利原中学校の閉校を機に、平成21年に「跡地活用検討委員会」を設立。地域住民自らで策定した将来ビジョンを元に、多様な主体がお互いに連携

地域住民の思いが大根やぐらに明かりを灯す

そして、始まったのが「大根やぐらのライトアップイベント」。こうして地域づくりの火は灯り、広がってゆく。

廃校跡を活用した「やまんなかスクールマルシェ」などの活動で、地域内外の異年齢・異業種交流を活性化させながら、地域の若手や女性部を中心とした、新たな人材や資源発掘を行い、地域資源を生かしたスタートアップビジネスの展開を目指した。10人未満で構成される宿利原地区公民館は、各種事業の企画・運営を、執行部役員（他、総務部、産業部、文化部、女性部、子ども育成部）などの7専門部会に分けて推進している。地域資源を生かした農業振興、都市農村交流、教育支援などの取り組みは高く評価され、令和元年度には「豊かなむらづくり全国表彰」において農林水産大臣賞を受賞した。

宿利原の誇りの象徴とも言える大根やぐらの灯りと同じように、地域の火は今も明々と照らし続けている。



錦江町



大根やぐらライトアップイベント

平成21年から始まった地域資源を生かした取り組みは、NPO法人や人学、小学校、関連企業などの多様な主体と連携しながら継続的に開催している。



やまんなかスクールマルシェ

旧宿利原中学校跡地で開催される「やまんなかスクールマルシェ」には、約20店舗が出店し、地域内外の異業種交流の場を担っている。



公民館講座

地域の子どもたちへの様々な経験や体験をさせる場として、県内のNPOや関東の大学生と連携した「寺子屋塾」、「土曜授業」、「男の料理教室」などを企画・運営している。



地域農産物を使った商品開発

イノシシ肉を使ったペット用ジャーキーやさつまいもを使ったバタージャム、ニシ大根を使ったタルトソースなどを制作し、マルシェやイベントで発售・PRしている。

★宿利原地区公民館

鹿児島県肝属郡錦江町神川 7258-1
【お問い合わせ】
電話 /0994-22-3036(錦江町役場産業振興課)

●アクセス

錦江町中心市街地(役場)から
国道269号を北へ約5分
→県道561号を東へ約10分





大和村



■くになおフォトコンテスト

地域の魅力を発信するために写真コンテストを開催。SNSを活用して集落の情報を発信している。優秀作品はカレンダーに採用されるなど、国直集落に愛着を持てるコンテストとなっている。



■国直集落ローカルルール

・集落内に時速20km走行
・水1バイクのマリンレジャーは禁止
・飲酒後の渡船は禁止 など
観光客を受け入れながらも暮らしやすい集落を目指し、独自のローカルルールを定めている。

TAMASUの活動は、外から訪れる人を受け入れることだけが目的ではない。観光交流資源の源泉である「のま」、つまり、集落の暮らしが持続可能な状態であることが肝要である。住民アンケートによる「交流人口の増加に伴い何らかの不快感を経験をしたことがある」という割合が52%で、逆に「増加することを歓迎する」という割合が48%という結果が出た。そこで、交流人口の拡大と集落のコミュニティの維持を両立するために、国直集落ではローカルルールを設けている。例えば、「集落内は時速20km走行」、「毎月第3日曜日は集落清掃の日」など、法的拘束力は無いが、地域住民が課題解決のために自ら考えた内容7項目が提唱されている。TAMASUと国直集落が目指すのは、地域資源を活かして住民生活に配慮した持続可能な集落づくりなのである。

ローカルルールによる
持続可能な観光地と集落づくり



■フクギ並木の再生・保全

集落の象徴的存在であるフクギ。集落を火災や台風から守ってくれるフクギも、昔に上ると数が減少しているため、苗木を植栽するなど再生と保全に取り組んでいる。



■国直集落まるごと体験交流

フクギ並木のある集落散策、島の伝統体験、美しい海でのSJPなど、国直集落の暮らしをまるごと体験できるプログラムを作り、受け入れを行っている。



大和村

(奄美大島)

特定非営利
活動法人

TAMASU

タマス

島の宝を
「たます分け」

白い砂浜に打ち寄せる波。青くきらめく海にアダムの樹影が映える。まるで楽園のような光景を見せられるのは、奄美大島の国直集落。ユネスコ世界自然遺産に登録された奄美大島の豊かな自然とそこに根づく文化が残る地域である。国直集落が他の集落と違うところは、外から訪れた人を受け入れる体制ができていて、それは集落のコミュニティがしっかりとしていないとできないことである。

仕掛け人は、特定非営利活動法人TAMASU理事長の中村修さん。「国直集落の宝を他の人にもお裾分けしたい」との思いから、平成27年にTAMASUを立ち上げた。名前の由来は、奄美の言葉で「分ち合う」という意味の「たます分け」。TAMASUが守るべき宝とは、先人から受け継いだ国直の「自然」、「文化」、「コミュニティ」であり、それを地域住民だけでなく、外から訪れた奄美大島に居るすべての人々に分かち合おうことが活動の趣旨である。中村さんの情熱によるTAMASUの活動は、集落を巻き込んだ取り組みに発展していく。

体験ツアーを通して
地域住民と参加者が
一体となる



国直集落の宝をまるごと「たます分け」!

地域活動の概要

代表理事 中村修氏

TAMASUの主な活動は、地域資源を活用したツアーの開催。「国直集落まるごと体験」と銘打ち、「海辺」、「里」、「集落」、「島料理」の4つのカテゴリで楽しめる合計40種類のツアーを提供している。美しい海でのSUPやシュノーケリング、里山での果樹の収穫、暮らしの中の集落散策、伝統の臼料理体験など、集落の暮らしをまるごと体験できるのが大きな魅力で、ティーブな地域への旅を求める個人客に特に受けが良い。

体験ツアーを案内するのは20代の若者から80代の地域住民、そして国直集落に移り住んできた人など、実に様々。国直集落を愛する人々による島の宝の案内は、参加者の心を強く惹きつけている。

★特定非営利活動法人 TAMASU

鹿児島県大島郡大和村国直85-1
電話/0997-57-2828

●アクセス

奄美市街地(市役所)から
県道79号を海沿いに約30分



奄美大島

むら 農村のポテンシャルを活かした地域活性化に向けて

県では、「人と自然と地域が支え合うみんなで創る農村社会」の実現を目指す、平成19年度から「共生・協働の農村づくり運動」を展開しており、県内各地域において、地域資源を活用した都市農村交流や特産品づくりへの取り組み、集落営農法人等と連携した農業の振興など、農村の活性化に向け、地域の特徴を生かした多種多様な取り組みが展開されています。

このような中、農村地域に内在する農産物や景観、歴史、伝統芸能などの地域資源の発掘や高付加価値化等に取り組み、地域の魅力として情報発信し、魅力を活用した地域外住民との交流を図るなど、農村のポテンシャル（潜在的な魅力）を活かした地域活性化への取り組みを県が「農村のポテンシャル発掘・活川推進事業」として令和元年度から3年度までの3年間支援しました。

今回、この事業に取り込んだ5つの地域の活動内容を、「地域が持つポテンシャルを引き出し、活用することで、地域の活性化につなげている事例」として、取りまとめました。これらの事例を、皆さんの地域における農村づくりの取り組みの参考としていただき、地域の活性化につながることを期待します。

共生・協働の農村づくり運動



農村集落

地域内の多様な主体



むらづくり委員会

話し合い活動

「むらのかたち」(将来像)の作成



農村集落の再生



「むらのかたち」の作成や、実践活動を通して、農村集落内の住民・組織間の連携により農村集落の再生を図る。

新たなむらづくりの形成



都市と農村の交流活動、U・I・Jターンの定住促進などで新たなむらづくりの形成を図る。

むらづくりの維持・発展



様々な制度を活用した農村環境の保全や、地域資源の発掘・活用等によりむらづくりの維持・発展を図る。

協力の要請
活動の場の提供

地域外の多様な主体



ノウハウ支援・
仕掛けづくり



NPO 法人等
都市住民等との連携、体験、交流

参加



都市住民
市民農園、オーナー制度、
各種イベントへの参加

定住



U・I・Jターンの
団塊の世代、若い世代
の農村への定住促進

5つの地域の 様々な手法

今回の紹介事例では、今日の地域コミュニティの変化に伴い、主体となる住民の年齢層や得意分野にあわせて、「地域イベント」「伝統芸能」「SNS」などの手法がとられており、地域住民の総意のもと、無理なく続けられる活動である。



P12

国直集落 (大和村)
国直集落まるごと体験交流・
国直集落ローカルフェス



P10

宿利原地区 (錦江町)
人根やぐらライトアップイベント・
やまんなかスクールマルシェ



P08

中津川区 (さつま町)
金吾様踊り・
なかつこ日曜朝市



P06

田部田地区 (南九州市)
日んぼアート・
田部田稲祭り



P04

大久保集落 (南九州市)
晩秋のひまわり祭り・
大久保ふるさと祭り